

梅津善之議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位12番、議席番号9番、梅津善之議員。

(9番梅津善之議員登壇)

○**9番 梅津善之議員** おはようございます。

まずは、2回目の当選をさせていただきました。心からお礼を申し上げます。

私にとって1期目の4年間は、右も左もわからない中、市民目線で議会にさまざまな意見を申し上げてまいりました。中には、判断のとても難しいものもあり、賛否の是非を問われることなど、自分には身の重い4年間だったと思っております。しかし、常に市民の思いを判断させていただいたと思っておりますし、これからも同じ考えでさまざまな提案を申し上げてまいりたいと思います。

さて、国では、集团的自衛権の行使を可能にする安全保障関連の法案の論戦が繰り返されておりますわけですが、たとえ、数の力で法が通ったとしても、自分の子供にはソマリア海峡の機雷掃海などには行かせたくないと思うのは私だけではないと思いますし、また、TPPの交渉でも、主食の米が最後の交渉カードを切るようなことがあってはならないと国会決議を無視し、なし崩しに大筋合意にはならないよう、広く国民に訴えてまいりたいと思っております。

さらに、各地で起こる噴火や火山性微動、集中豪雨など、災害が絶えないわけです。また、我が県でも、蔵王山の噴火警報も本日解除の予定と山形新聞に大きく見出しに出していましたが、ぜひ、我が長井市は災害のない安心して暮らせる1年を願いながら一般質問をさせていただきます。

まず1点目は、飯豊町の水道水事業、水源開

発事業についてです。

さきの5月28日の産業・建設常任委員会協議会の説明では、平成23年の夏に飯豊町の上水道飲料水に異臭が発生し、原因は、水源である一級河川置賜白川の河川水から藍藻類、いわゆる藻が発生し、異常繁殖したことにより異臭物質が発生し、混入したためとあり、あらゆる対策をしましたが改善が見られなかったと。そのため、新たな水源の開発に踏み切ったとあります。そして、新たな水源として、町内の公共用水を調査して有望な水源がないため、地下水の利用を前提に水源地の選定を行った。その場所が平野地区との境界、飯豊町中地内で野川水系の堆積物がある場所。長井市との境界からわずか100メートル程度のところにボーリングの予定として地下40メートル程度との説明がありました。まずは、飯豊町から長井市に隣接の地下水を採掘するに当たり、計画は以前に飯豊町から長井市へのどのような説明があったか、また、長井市のこの水道を利用されるような検討はなされたのか、長井市の住民への説明はあったのか、飯豊町との取り決めはどうなっているのかをお聞きします。

大きな2番目の質問です。観光交流センターについてです。

昨日の小関秀一議員の質問と重複しますが、お答えいただきますようお願いいたします。

まず、観光交流センターのかわた道の駅については、平成24年度からさまざまな議論を繰り返してまいりました。当初は駅前の花公園や河川公園、パッケージ事業であるということ。さらには、場所の問題、幼稚園や小学校の近いところであるということ。道路の改良や渋滞の発生懸念、さらに最上川千本桜のこと等、さまざまな議論がなされて進んできたと思います。その間、否決や修正案の可決なども議会としても議員一人一人が難しい判断をされてまいりましたと思っております。決まったことまで反対する

つもりはありませんが、決まったことは住民の理解を得て速やかに進めていただきたいと思います。その中で、現在の民地の買収はどうなっているのか、関係の住民の理解が得られているのか、旧ハイマン商事、データポイントの撤去の進捗状況はどうなっているのか、さらには、現在のペースで観光交流センターは平成28年度内に完成できるのかをお聞きしたいと思います。

次に、大きな3番目の質問です。シティープロモーション事業についてです。

新地域マネジャー事業の採択により、外部人材の専門的知識を取り入れながら、長井シティープロモーション推進事業を戦略的に実施するもの。事業の目的としては、継続的に発展させるために長井の魅力を生み出し、市民と行政が協力、協働で地域力を高めるとともに、産業の連携や観光交流の拡大によって新たな活力を創出することとし、地域の魅力を再構築、創造し、地域住民の誇りや愛着を高めていき、地域の売り込みや自治体の知名度を向上させる情報交流の取り組みであります。地域のイメージを高めることで物的、人的交流の経営資源の獲得を目指すことあり、事業内容として6項目に分かれています。

まず1つ目は、地域おこし協力隊推進事業であります。行政関係やNPO団体、民間企業などの連携により、シティープロモーションの事業を展開する。地域の担い手として隊員の就業、定住の動機づけの活動を行う。

2番目、まち魅力創造の事業です。

長井の固有資源である水と川と森を生かしたエコツーリズム事業の創出で、百秋湖、三淵溪谷の観光船の事業化を目指す。野川まなび館を長井の水を売り出す情報発信基地、環境教育の水の博物館として位置づけ、まちなかと水源地域を結ぶ地域循環観光の拠点として再構築を行う。

3番目として、戦略的情報の発信事業。市民

参加型のコミュニティーFMおらんだラジオの連携により、住民の愛着を高め、インターネットサイマル放送により、全世界に向けて情報発信を行う。地域の売り込みや自治体の知名度を向上させ、情報交流の仕組みをつくる。

4番目には、物的交流の拡大事業として、馬肉ラーメン肉まんを長井の新名物として売り出し、ラーメンテーマパーク等の売り出しを進める。ふるさと納税制度を活用し、地場産品のPRとリピーター獲得の販路拡大を行う。

5番目として、交流人口拡大の事業。地域住民の移住希望者とのかけ橋となる移住定住コンシェルジュの配置により、市内には移住者の受け入れ体制の準備を行う。地域主導型の集客交流サービスを推進するため商品をつくる、商品を販売する、来訪者をもてなすといった一連の機能を市民、民間、行政で一元的に担い、組織のコーディネートを行い、観光プラットフォームの構築を進めるとあります。また、大田区の物づくり工場、長井工業高校との工業連携を進め、人材育成とあわせて生産の拠点、誘致を行い、雇用の確保により若者の流出の抑制をするなどあります。

6番目には、トータルデザイン戦略事業として、長井にある地域資源、水、馬、食などの強みを際立たせるため、コンセプトメイクによる魅力の絞り込みを行い、どのように売り込むかトータルデザインによるイメージ戦略を構築するなどの事業があります。その中でも、私が非常に期待していることがございます。5番目の人口拡大事業として、移住定住コンシェルジュはどのような事業をするのか、また、その方法は具体的に何かあるのかをお聞きしたいと思います。

以上で壇上からの質問を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 梅津善之議員のご質問にお答え

いたします。

議員からは、2期目に当たっての1期目の議員活動に対する真摯な思い等々申し述べられましたけども、敬意を表するものでございます。

まず、私のほうからは、1点目の飯豊町の地下水についてのご質問でございます。

まず最初に、梅津議員からこのご質問いただきましたまして感謝を申し上げたいと思います。というのは、非常に私も唐突な話だったものですから、この話を知ったのは4月でございます。これもいわゆるそういう情報があるということなんですね。昨年度、飯豊町のほうでは、議員おっしゃるように、地下水といいますか、水道水に水源に非常に苦慮されていたということから、試掘を長井の九野本郷でされていたという情報は市の担当者からは聞いてはあったんですが、それがまさか本掘だったということはびっくりしました。全く私どもにはそういう話ございません。

それで、まず申し上げておきたいのは、5月の下旬に、まずは、飯豊町の副町長が、そしてその後、町長さんがおおびに見えられました。非常にお騒がせしたということでございますが、地元の方々が、九野本の方々がこれって大変心配だということで問題視されたということから、飯豊町のほうでは長井市の九野本のその関係する人たちに説明会をしたということですが、それも私どもには一切話ございませんでした。普通は、隣町ですから、長井の市民を集めて説明会するときは、長井市もこういうことでします、立ち会ってくださいとか、普通はあるはずだと思っただけだったので、ちょっと耳を疑いました。しかし、そういうふうにおおびに来られたので、これはお互いさまなのかなということで、それは了とさせていただきますけれども。

実は、私ども長井市のほうでは、水道、全部地下水なんですけど、これは5万人の供給を想定した水道でございますので、余力がすごくある

んですね。私も就任させていただいて、19年度あたりにどんどん利用者減ってくるので水道事業も大変だと。ぜひ水源で苦慮している飯豊町と白鷹町さんに声をかけて一緒にやらないかということはどうだというお話を県庁の職員の方のほうからも、後ほど上下水道課長、あるいは建設参事からあるかもしれませんが、通じて、ちょっと提案させてもらったんですね。白鷹町さんのほうは何とかなるんで大丈夫だと。飯豊町さんは、じゃあちょっと検討させてくださいということだったんですね。具体的に私どもとしては、もし飯豊町さんで長井の水道水を使われるとしたら、飯豊町のためにもう一つ別なボーリングを九野本郷内にさせてもらってそこから供給できると、こういう体制まで提案したんですね。大体どのぐらいの経費だということまでしたんですが、結果として、残念ながら受け入れてもらえなかったという経緯がございます。

それだけに、今回のことは、多分事前に協議してたら100メートルではだめだと、せめて300メートル、500メートルは離してください。というのは、ちょうど境界のところ、九野本の集落が2つあるわけで、そこではもちろん地下水使ってるわけですから、それはないでしょうと、こっち側ではもちろん申し上げるわけですよ。しかし、残念ながらもう本掘されてるということだったんで、もうちょっと残念だったなというふうに思ってます。

私どもの水道水の取水能力でございますが、1日当たり1万5,700立米でございます。平成26年度の1日当たりの平均取水量は8,600立米なんですね。ですから、半分ぐらいなんです。お盆や正月帰省時期で最大1万立米ぐらいにはなるんですけども、それでも5,700立米ぐらいは最大時でも余裕があるという状況でございます。

このたび飯豊町で開発予定しております水道

水源の井戸については、1日当たりの取水量が3,600立米、ですから、長井から分けても十分。なおかつ、何かあると大変なので、別なボーリングでいい場所から供給したいと思ってたので、非常にそういった意味では、改めて残念に思ったところでございます。

私どももこれからどんどん人口が減ってきますので、特に水道事業についても効率化を図るためにも、今後も飯豊町とか白鷹町さんとはいろんな形で連携をしなきゃいけないというふうには思っているところでございますが、参事のほうから、あるいは課長のほうからもあるかと思いますが、今回、町長さん、あるいは副町長さんとお話しした際には、きちっと覚書を取り交わしていただきたいと。やっぱりいろんな補償も含めて、さまざまな懸念される部分を私どもが飯豊町さんときちんと覚書を交わして、市民の皆様には迷惑かけないような、万一迷惑かけた場合にはきちんと補償できるようなそういった内容にしたいと思っております。

なお、飯豊町さんのほうは、これ夏の期間しか使わないということで、それもちょっとせつかく掘ったんならもう全部供給すればいいのかなと思うんですが、夏しか使わないということですので、そこも含めてちゃんと取り決めをしたいと。1年間を通すと、当然渇水期の冬期間なんかは支障が出る可能性がありますので、そういったところも地元の皆様とも地区長会の皆様ともいろいろ意見交換、協議をしながら決めてまいりたいと思います。私のほうからは以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 横山賢一建設参事。

○**横山賢一建設参事** それでは、梅津善之議員にお答えいたします。

私のほうからは、1点目、飯豊町の地下水について2点ほど。

あと、もう1点、観光交流センターの用地について2点ほどお答えしたいと思います。

1点目の飯豊町から長井市へのどのような説明があったのかにつきましてお答えいたします。

飯豊町では、水道水源としている置賜白川の表流水で、平成23年度に藍藻類が異常繁殖し、異臭の伴う水質事故があり、以降も水質改善がならないことから、良質で安定的に供給できる新たな水道水源を確保するため、平成25年度から平成26年度にかけ、長井市で隣接しています野川水系のエリアも含めて水源調査を行ったようでございます。長井市上下水道課には、平成26年3月に、飯豊町地域整備課から新たな水道水源を確保する必要があることから、長井市の隣接地も含め調査を進めているとの連絡をいただいたところでございます。

2点目の長井市の豊富な水道を供給するというような提案はされたのかというふうなことについてお答えいたします。

平成20年3月に、長井市、白鷹町、飯豊町の給水広域化に向けた勉強会を県の食品安全対策課の専門員を講師にお招きいたしまして開始いたしました。以降3回にわたる広域化の勉強会を重ねる間に、平成20年10月に飯豊町さんから、施設の老朽化が著しいことから水道水供給の相談を受けたところでございます。以降数回にわたり飯豊町の担当者と協議を行い、この間、概算工事費の説明を行ってまいりましたが、平成21年3月に飯豊町さんから、自前の水源を整備したいというふうなことから今回は見送りさせて頂きたい旨の報告がなされてございました。

3点目、観光交流センターの用地についてでございます。

民地の買収はどうなっているのかについてお答え申し上げます。昨日の小関議員の回答と重複いたしますが、ご理解のほどよろしくお願いたします。

観光交流センター敷地内の用地買収につきましては、平成26年度に着手し、現在旧マーク工場、旧白川ダム宿舎、旧食糧事務所の解体工事

を6月30日の完了工期で進めているところがございます。平成27年度は、一般住宅3軒とシルバー人材センターの用地買収及び物件移転補償を予定しておりまして、交付決定を受け、現在用地交渉を進めてございます。うち2軒の方につきましては、先ごろ契約を締結いたしましたところでございます。残るお一人の方につきましても、好意的な対応をいただいております、現在移転先について調整を図っているところでございます。

もう1点、旧ハイマン商事の撤去はどうなっているのかについてお答えいたします。

旧データポイントにつきましても、5月22日に補償契約を締結し、7月31日をもって取り壊し完了で引き渡しを受ける予定でございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 種村正一上下水道課長。

○**種村正一上下水道課長** 梅津善之議員のご質問にお答えいたします。

私のほうからは、1点目の飯豊町の地下水についての(2)地域住民への説明はあったのかについて初めにお答えいたします。

地域住民の方への説明につきましては、館地区、子坂地区からそれぞれ飯豊町に対して事業説明に関する説明会の要請を行い、館地区では、平成27年2月25日に、子坂地区におきましては、4月12日に飯豊町主催の住民説明会が開催されました。その際、長井市には飯豊町あるいは、2つの地区どちらからも事前のご相談等はございませんでした。また、2地区説明会後の4月中旬に子坂地区長と平野地区長会長から上下水道課に地下水の取水に関する影響や合同説明会の進め方について相談をいただき、5月26日、地下水開発予定地に隣接する子坂地区、館地区、善並、伊勢堂、木口地区の5地区の住民の方を対象に、長井市の職員も同席し、平野地区公民館で飯豊町から説明を受けたところでございます。説明会に参加された住民の方からは、飯豊

町の方が生活に欠かすことのできない水道水で困っているのであれば、同じ地域の生活者として協力していかなければいけないのではとのご意見がある一方で、飯豊町の水道水の取水により、万が一、周辺住民に影響が出た場合は、補償等について適切に対応してほしいと飯豊町に要望がなされたところです。

(3)の飯豊町との取り決めはどうなっているのかについてお答えいたします。

5月26日に開催されました合同の住民説明会において、飯豊町の水道水源の取水により影響が生じた場合の補償等について、将来にわたってしっかりと約束を守っていただくためにも覚書を取り交わしていくべきとのご意見がございました。長井市といたしましては、飯豊町には開発を予定している水道水源周辺の長井市民に対して丁寧な事業説明と真摯な対応に努めていただくこと。あわせて説明会に参加された住民の方から要望のあった補償等に関する覚書について速やかに作成し、地域の方からご理解と合意を得た上で事業を進めていただくよう、強くお願いしたところでございます。

私のほうからは以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設課長。

○**青木邦博建設課長** 梅津議員のご質問にお答えいたします。

私からは、問2、観光交流センターの用地についての(3)観光交流センターは、28年度内の完成でよいのかについてお答えいたします。

本年度の社会資本整備総合交付金事業の内示率はどの事業も非常に厳しく、都市再生整備事業も例外ではございませんでした。平成27年度は交付決定を受けて始まったばかりでございますが、今後は国の補正予算をにらみながら、内示予算内では観光交流センターに比重を置いて、平成28年度完成を目標に鋭意進めてまいります。なお、28年度は完了年度でもあり、厚い予算確保を強く要望していく所存でございます。

以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** 梅津善之議員からご質問がありましたシティープロモーション推進事業についてお答え申し上げます。

このシティープロモーション推進事業は、長井市の魅力を効果的にPRすることで産業の連携や観光交流を拡大させ、長井市を活性化させることなどを目的としております。長井らしさを確立し、地域のイメージを高めることで交流人口の増加から定住人口の増加により、地域経済の活性化に結びつけていくことが事業の目指すところでございます。地方への新しい人の流れをつくるという点において、今年度から新たに交流人口拡大事業にも取り組み、観光地域づくりプラットホームの構築などを見据えながら、人的交流の拡大を進めていきたいと考えております。また、東京事務所は長井と首都圏をつなぐ拠点でもございますので、都市部における移住交流の案内と相談窓口にもなっております。移住定住コンシェルジュとも連携した体制をとる必要があると認識してるところでございます。

私のほうからは以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 谷澤秀一地域づくり推進課長。

○**谷澤秀一地域づくり推進課長** 梅津善之議員のご質問にお答えいたします。

移住定住コンシェルジュについてでございますが、これは、いわゆる移住定住に関する世話役というふうなイメージであります。移住を希望する人が安心して移住を決断して、地域に溶け込みながら安定した生活を送るためには、移住希望者と、あと地域住民とそこをつなぐキーパーソンが必要ではないかというふうに考えているところでございます。

長井市では、平成24年度から体験ハウスというものをオープンしまして、田舎暮らしに興味を持っていただいている方に無償で宿泊していただきながら、市の歴史や文化、祭りや食、あ

るいは農、そういった体験ができるようにということで実施しております。平成26年度は、この体験ハウスには32名のご利用がありました。そして、利用した方々からはレポートを頂戴しておりますが、その中に、希望者には実際に長井市をご案内いただけるようにできないものかとか、また、地元の方にその移住に関する相談をしたり直接話しできる機会を設けてはいかかかと、そういった提案なども頂戴しております。これらを受けまして、平成27年度にシティープロモーション事業の中でこの移住定住コンシェルジュの設置というのを予定したところでございます。具体的な従事者については現在検討中なのですが、実際に長井にIターン、あるいはUターンなどで移住してきた方々を想定しております。移住するに当たって、その心配事とか悩み事というのは、基本的には同じであるだろうというふうに考えておまして、先輩移住者としてアドバイスをいただけるようにというふうに考えております。

また、交流人口の拡大、移住定住の相談窓口として、昨年7月に開設しました東京事務所の機能も大いに活用して、長井をPRしながら、この長井を選んでいただけるというふうにしていきたいと考えております。

以上になります。

○**渋谷佐輔議長** 9番、梅津善之議員。

○**9番 梅津善之議員** それぞれ答弁ありがとうございました。

まず、水道水というか、地下水の採掘についてですが、市長にお伺いしたいと思います。

近所、隣というのは仲よくしんなねというのが私の基本的なことで、いつも私もお世話になってるわけですけども、誰がどう見ても、5万人の許容が可能だという長井市の有効な自慢できる水を隣町にぜひ使ってくださいと、仲よくすんべねというのが非常にいいことなんだべなと思うし、採掘してる場所が飯豊町から長井市

さ張り出したみたいな、本当に俺もびっくりしたんですが、地域住民からみれば、全く10メートルとか20メートルを掘って自分の家で利用してる方が当然いっちゃうわけですし、当然今後も文書で補償も含めて契約を交わすなんていうことも当然わかるんですけども、できれば仲よくしてやったほうがいいんでねえかなというのは、多分長井市民もありがたいことだと思うんですね。その辺は、もはや手おくれかどうかではありますけども、もし話をして何とかなんねえかななんていうことを市長から町長にでも、非常に難しいことかもしれませんが、検討なされたらいいんじゃないかなと思いますけども、その辺はどうですか、市長。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 飯豊町さんと白鷹町さんと小国町さんとは非常に良好な関係だと思ってます。仲がいいですし、特に西置賜行政組合などでもいろんな意味でお互いさまということで助け合ってるわけですから、ただ、今回の場合は、やっぱりよほど飯豊町の強い意思が感じられましたんで、この間、町長あるいはその前に副町長がいらしたときには、その話はしませんでした。というのは、もう事業費も10億円ぐらいという話聞いてますし、もう準備をされてるんですね。試掘されたというときは聞いてたんですよ。本当にボーリングするんだったら当然話はあるんだろうと。そのときにでも、もしよかったらうちのほうでずっと1年中、365日おいしい地下水が飲めるんだからどうですかというふうに、これはもちろん言うつもりはあったんですけども、まさかそれがいつの間にか本掘したと。しかも自分の、自分という言い方はちょっと語弊があるかもしれませんが、飯豊町の住民の住んでる近くの集落のところ掘ってるっていうんならあんまり言わないですね。そうじゃなくて、長井市の集落のすぐそばに、しかも、もう境界境100メートルっていうんですか。もう地図で

見たらすぐ長井市ですよ、ほとんど。あとで聞いたら、水源の関係でそこしかない水源がとれないということであったんなら、普通は調査結果を持ってきて、こういう状況だけどうだ、お願いできないかって普通はあっていいんじゃないかなと非常に残念です。

これからのことなんですけど、多分工事のほうは相当時間もお金もかかるんだと思いますので、計画はしてるんでしょうけども、まだそこまでの計画はきちんとなっていないと思いますので、覚書を締結するというところでいろいろ打ち合わせはするわけですから、その中でも機会を見て、最初お願いしたほうがいいのかなどは思いますが。問題は、それで飯豊町さんがずっとその水を1年中供給するという計画じゃないんですよ、ご承知のとおり。それってどうなのかなって私思ひまして、普通だったら3,600立米もとれる能力があるんでしたらそれでずっとやりますよ。だけど、そうしないとおっしゃるんで、それもよくわからないので、だったらもう一回その部分は置いといても、多分長井と一緒にやったほうが飯豊町としてはもしかしたらメリットのほうが大きいかもしれませんので、そこはぜひご提案をさせていただきたいなというふうに思います。ただ、今の段階ではそこまでは気持ちはなかったんですが、梅津議員からのそういうご提言でありますので、ぜひそういったことも検討してまいりたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 9番、梅津善之議員。

○**9番 梅津善之議員** ぜひ検討していただいて、いい水を飲んでいただけるということと、長井市民も全体の分母が大きくなれば、みんな安く、安くなるというか、市民もメリットがあることだと私も思ってますので、ぜひ進めて、お話だけでもしていただければありがたいかなと思っております。よろしく申し上げます。

次に、観光交流センターの用地について、建設参事にお伺いします。

ほとんど買収も良好な経過で進まれているというふうなお話でしたけども、素人目に思えるんですが、移転される方だってこれから住宅を建てたりしなければならぬ、どこにも家のないところに移転はできないと思うし、そういうスケジュールを見ると、なかなか28年度内で観光交流センターを完成していくというのは非常に大変でないかなと、非常にスケジュール的にはタイトではないかなと思ってるんですが、その辺は間違いなく大丈夫か、もう一度、建設参事、お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 横山賢一建設参事。

○**横山賢一建設参事** お答えいたします。

観光交流センターの建設につきましては、開発行為を2つに分けてございまして、工区が2つございます。それで、切り離して観光交流センターのほうは建設が可能というようなことになりますので、10月の開始を目指して進めているというふうな状況でございます。用地の買収等々、民間の3名の方につきましては、今、2軒の方はもう既に契約を終了させていただきながら、代替の部分であったり、かわりの住宅というようなところを当然探していただいておりますので、十分28年度の工期には全て完了できるというふうなところを考えてございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 9番、梅津善之議員。

○**9番 梅津善之議員** 市長にちょっとお願いしたいんですが、通告していないので、議長の許可を得て、ちょっと今のことについて市長にお伺いしたいんですが、よろしいですか、議長。

○**渋谷佐輔議長** 市長、よろしいですか。

○**内谷重治市長** どうぞ。

○**9番 梅津善之議員** 私はいろいろ反対もしてきましたし、なかなか大変だなと思って、今も思ってるんです。せっきゃく決まったことであるならば、移転されるその方がいて、良好な関係で長年そこにお住まいであったわけで、そこで

仕事もしていた方もいらっしゃるし、その人の思いを思えばなかなかつらいものがあるんじゃないかなと思いますし、この前の3月ですか、補正して予算も増額してるわけなので、ぜひ良好にというか、上手に移転していただくように速やかに進めていただきたいと思いますので、ぜひその辺の市長の考え方をお伺いしたい。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

梅津議員がご心配されてるように、もともと東町に長年お住まいになられた方でございますし、この事業の計画が議会に承認される前から一応お話はさせていただいております。具体的に予算をつけて、承認いただいた後に具体的な交渉等、金額をお示しさせていただいて、お二人の方は合意をいただいたと。今、やっぱりできるだけ東町にいたい、あるいはこの周辺にいたいということで場所をお探しになってるとお伺いしています。あと、まだ契約されてない方も議会のほうから予算のほうもお認めいただきましたし、何とかその範囲内でご了承いただけるようお願いしてるところでございますが、いずれにしろ、私どもとしては誠意を尽くして、できる限りの対応をさせてもらいたい。なお、あそこの3軒の部分と市の土地ではございますが、シルバー人材センターのところは、めぐみ幼稚園の隣接したところで、広場、公園として見てるところなんです。ですから、子供たちもイベント広場みたいな形で……。

(「通路」と呼ぶ者あり)

○**内谷重治市長** 通路とイベントのところになるところでございまして、非常にそういった意味では、そのご同意をいただくことによって観光交流センターの機能が充実するっていいですか、安全性も含めて非常に重要な箇所だというふうに思ってますので、何とか非常に協力的な対応をしていただいておりますけれども、こちらもちょうど誠意を尽くしてお願いしてまいりたいと思っております。

ます。

○**渋谷佐輔議長** 9番、梅津善之議員。

○**9番 梅津善之議員** ぜひそのようにお願いしたいと思います。

最後にですけども、地域づくり推進課長にお伺いします。

移住定住コンシェルジュということで、先ほどは、長井に移住された方にどうかなんていう話を課長のほうからいただきましたけども、やっぱり長井の魅力を、もちろん移住してきた方はそれなりにいいと思って住んでらっしゃると思いますし、それはそれでよろしいんですけども、ぜひ長井の魅力というのをわかっている、それぞれの地域の方がたくさんいらっしゃると思いますし、農業や工業やさまざまな形で携わってる方がたくさんいると思います。

私が今、平野に住んでるわけですけども、地域地域の特色もそれぞれあると思うので、それぞれの思いを込めたやっぱりコンシェルジュを要請という形は大変失礼かもしれないですけども、求めてぜひたくさんの方が長井に移住させていただくことをお願いしたいんですけども、その辺は課長、いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 谷澤秀一地域づくり推進課長。

○**谷澤秀一地域づくり推進課長** ただいまの提案でございますが、まだこの方と決めたわけではなく、今思っているのが、長井にIターンとかUターンでいらっしゃった方、それから、この移住交流について、この長井の人と暮らしの手引きということで「ごんざい」という冊子をつくっております。この中に登場している方々は、IターンとかUターンの方もいらっしゃいますが、ずっと以前から地元でそれぞれの分野で頑張っただいていらっしゃる方々もご紹介しております。こういった方々ともちょっと相談させてもらいながら、これからのこのコンシェルジュというものを定めていきたいなというふうに考えてます。

○**渋谷佐輔議長** 9番、梅津善之議員。

○**9番 梅津善之議員** ぜひお願いしたいと思えますし、一つちょっと例を挙げさせてもらおうと、山口市の事例でございますけれども、商工会議所との連携を図って自営業者等の方を任命したり、農業の後継者不足も含めて、農業関係者の方にサポーターになってもらってやってると。平成20年から始めてもう52世帯、119名がもう移住してるなんていう実績もございますし、農業も大変だといいいながらそれなりに魅力を感じて頑張ってる方もいらっしゃいますし、そういうようなのも長井の魅力として定住の一助になればなんと私自身も思ってますので、ぜひ参考にさせていただきたいなと思います。

以上で質問を終わります。

○**渋谷佐輔議長** ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前 11時49分 休憩

午後 1時00分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

蒲生光男議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位13番 議席番号13番 蒲生光男議員。

(13番蒲生光男議員登壇)

○**13番 蒲生光男議員** 通告してあります質問事項は3点です。答弁は的確かつ明確にお願いいたします。とはいいいながら、今回の質問は大分長々となっておりますので、ひとつ最後まで